

交野市教委ニュース

第64号（平成29年6月2日発行）

交野の小中一貫教育 ～未来を生きる交野の子どもたちのために～

交野市では、これまでの小・中学校間の連携による取組みの成果を踏まえ、平成29年度から、義務教育9年間で「何ができるようになるか」「どのような力を子どもに育てたいか」を明確にした小中一貫教育を推進しています。

取組みの中の一つとして、学校図書館の活用があります。言語活用能力向上のために、各教科、領域の特性に応じて市内全ての小学校の図書館に「学びあいサポーター」を配置しています。

今回は、倉治小学校の活動を紹介します。

5年生は、『世界の昔話地図を作ろう！』、そして6年生は、『特別な絵本』～文字なし絵本に物語を書こう！～をゴールに設定し、5月19日には、それぞれ単元の1時間目が行われました。

5年生の授業では、まず初めに世界地図を見せて、世界各国の昔話を知り、単元の目標や目的を児童にイメージしやすいように伝えていました。今回は、「ポーランドを調べよう」ということで、ポーランドの昔話の読み聞かせを聞いたあとに、情報カードに聞いた絵本のあらすじを書きました。

その後、グループでの調べ学習で国旗、有名な人物などを調べました。「見つけた！」「ここに載ってる！」など調べていたことが、わかったときの子どもたちの表情は、生き生きし、自然と身体が前のめりになり、興味津々でポーランドについて調べていました。児童の知りたいという好奇心とグループワークを活かした展開でとても楽しく取り組んでいました。



6年生には、「絵本の主人公の気持ちや情景を考えて、グループで話し合って自分たちの絵本を完成させる。」ということ伝えて、今日の活動に入りました。

学びあいサポーターが絵を丁寧に読むことを何度も伝え、児童も隔々まで見ることで新しい発見もあったようです。

「絵から伝わってくることを言語化、「絵から登場人物の気持ちを考えよう」というアドバイスから、グループでの交流が活発になり始めました。



最後に、絵を見ながら、絵本のテーマ、所謂作者が伝えたいことを考えました。児童にとっては、難しい活動になりましたが、グループワークをすることでお互いの考えを知り、絵から想像が広がっていました。